

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500076		
法人名	特定非営利活動法人エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム桃源の家大島		
所在地	笠岡市西大島4415-1		
自己評価作成日	平成27年5月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivgsvoCd=3390500076-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年5月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海・山・川・田畑に囲まれた自然豊かな環境の中に施設があり、入居者様お一人おひとりが安楽にその人らしい生活が送って頂けるように、又、笑顔が職員・入居者様・ご家族様より見える介護を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲に山が連なる田園地帯で、少し足を延ばせば海という、自然環境に恵まれた場所に位置している。隣県に法人本社があり、多くの事業所を運営している。事業所の土地柄を活かし、一つ屋根の下で過ごす大家族として、地域で暮らす喜びを利用者と共に分かち合い、快適で安楽な生活の提供を職員は目指している。地域との交流に努め、ボランティアの方々の協力も得ながら、絵手紙やちぎり絵、しびし織りなどと日常生活を豊かにする取り組みが行われている。今年の3月には法人全体で、利用者の作品を展示する、文化祭「来て見ん祭」が実施された。事業所が地域の要所として、ますます進展されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「桃源の家大島理念」毎日、朝礼時に唱和し、意識付けを行いながら、実践につなげている。職員が順番に毎月の介護目標を考え、朝礼時に唱和している。	理念は見やすい位置に掲示され、毎朝唱和している。理念に沿った毎月の目標を職員自らが考え、実践することで、一人ひとりの意識づけを図っている。笑顔でおもてなしの介護を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、春・秋の掃除、秋祭り(千歳楽)等参加して、地域の人達から声掛けをして頂いている。季節の花や果物を持って来て下さる人もいる。	地域の溝掃除や神社の行事などに参加している。また近隣の方が野菜や果物、花などを届けてくれる。先月から傾聴ボランティアの方も来られており、地区社協の協力も得ながら地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会、地域包括支援センター等の出前講座に参加したり、運営推進会議等で認知症予防・認知症について話をしている。より認知症について理解して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当施設の現状、入居者様参加行事等の報告、参加者の方から情報・提案を頂いている。次回の行事参加などに活かしている。	2か月に1回開催し、民生委員・地区会長・副会長・愛育委員・老人会・地域包括職員などの地域に根ざした方々が参加している。事業所の状況報告や情報交換を行い、サービスの向上に活かされている。	開催回数も改善されて、必要性も十分に理解し、前向きに取り組まれている。今後は更に家族の参加と周知が図られ、事業所と地域、家族が一体となって共に歩むことが出来ればと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿支援課、地域包括の職員の人達と地域密着型会議、勉強会等で、報告・相談・情報交換を行っている。	地区社協や地域包括の職員が運営推進会議に参加している。お互いに情報交換がなされ、地域ぐるみで勉強会や研修会などが実施されている。認知症キャラバンメイトとしての活動も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で身体拘束について勉強会を行い、事例について話し合いを行い、ケアに取り組んでいる。	日々の実践の中でその都度話し合っ、身体拘束をしない生活の提供を心がけている。勉強会でその正しい理解と知識の習得に努めて、利用者一人ひとりが快適に暮らせる支援を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で虐待について勉強会を行い、適切でない言葉遣い、態度があれば注意するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、パンフレット等で勉強している。入居者様も活用している方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い、疑問点・質問等には理解して頂けるよう、ゆっくり時間をかけてお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの同意を頂く時、面会時等、来所時に近況をお伝えし、気付き、要望等がある際には、伺う様に努めている。遠方の御家族様には、電話・郵便にて意向を伺うようにしている。	家族の来訪や連絡時に、利用者の様子を知らせると共に、意見や要望を伺う機会としている。職員は担当制にしており、伺った内容は職員間での情報共有を図り、迅速な対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、個人面談等で職員の意見・提案を聞く機会を設け、反映するよう努めている。	ミーティングや日頃のケアの中で、意見交換がなされている。更に個人面談を実施して、個々の状況に応じた話し合いを行っている。月に1回法人本社で会議があり、上層部への意見の汲み上げが出来るようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の勤務態度、努力・実績の評価を6ヶ月毎に行い、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、法人内研修に参加出来る時はしている。外部研修を告知し、参加している職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型会議、多職種会議等で交流する機会があり、勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い、本人の状態把握を心がけ、入居時に安心して過して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時、契約時にご家族の困っていること、不安な事をしっかり伺うよう努めている。どのようにホームで過ごして欲しいか伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族から話を伺い、その人にあったサービスについての情報提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事、出来ない事を見極め、生活の中で一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態に変化がある時は、すぐに電話にて連絡・相談をしている。ご家族様が来所時、現状報告を行い、相談しながら本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が来られた際には職員も時には間に入って、会話を楽しみながら支援している。	家族や友人が頻回に訪れる方や、一緒に外出をして買い物や外食を楽しむ方がいる。タクシーを利用して、一人で外出する方もいる。安全面の配慮をしながらも、今までの生活が活かされる支援を心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性等考慮し、席の配置等に配慮しながら職員が間に入り、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、相談に応じ経過をフォローし、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の生活習慣希望を考慮し、日々の会話の中から、本人の意向を伺い、安楽な時間を過して頂けるよう努めている。	毎日の暮らしの中で、その時々の利用者の気持ちを汲み取り、一人ひとりの思いや意向に添った支援提供に努めている。今までの生活を職員が十分理解して、その人らしい暮らしを提供したいと思っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込等、契約時に御家族、ケアマネ、他の利用された事がある事業所職員から話を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様との会話や、習慣、生活歴、性格、趣味等、御家族様より伺い、状態観察、バイタルチェック、食事・水分摂取量等、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング、サービス担当者会議等で意見交換、課題を話し合い、御家族の方には面会時・電話にて、意向を伺いながら介護計画を作成している。	6か月毎の見直しを基本として、状態の変化に応じて作成している。モニタリングやカンファレンスを細目に行い、利用者や家族の意向を取り入れた、現状に即した介護計画となるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット申し送りノート、朝礼時等で情報の共有に努め実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節毎のイベント、花見、ドライブ、散歩で外出の機会を持って頂き、買物等、本人の希望に添えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会・小学校の運動会・発表会等に出席。小学生の訪問があり、地域のイベント等にも参加し、楽しむ事ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度協力医の往診があり、状態に応じて御家族に相談後、他の病院受診もを行っている。入所前からのかかりつけ医が希望の場合、引き続き継続している。	入居時に話し合い、希望に添って対応している。家族の協力を得ながら、状態に応じて介護タクシーを使ったり、職員が同行したりしている。協力医の往診が月に1回あり、職員間の情報共有を図り、医療面での安心提供に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状況報告を看護師に行い、必要時病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室の相談員の方と受診、入院時、相談・情報収集を行い、状態把握に努め、退院時に向けて関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を御家族様に説明・同意を得、状態に応じ、協力医師・看護師・ご家族様と話し合いを行っている。	重度化や看取りに関する指針に沿って、入居時に話し合い、同意を得ている。状態の変化に応じて家族と話し合い、意向や思いに添った対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応について話し合いを行い、普通救命講習の受講を勧めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練、年1回の南海トラフ巨大地震津波避難訓練の実施を行っている。運営推進会議の場で協力をお願いしている。地元の消防団員の人達に施設見学してもらい、意見交換をしている。	年に2回、春と秋に避難訓練を実施している。消防署の指導も受けている。地元消防団との関わりを今後深めていきたいと思い、見学に来てもらった。さらに地震や津波への対応も考慮した訓練を6月に予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や生活歴を尊重し、プライドを傷つけないように言葉かけ対応に心掛けている。	一人ひとりの既往歴や現状を十分に把握して、その時々の利用者の思いに添えるように努め、職員間で情報共有を図っている。また会話や記録において個人が特定されないように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意志・意向が聞けるような言葉掛けを行い、自己決定できるよう実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのその日の状態観察を行い、笑顔の見える生活支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や更衣など、できる所は出来るだけ御自身でして頂き、その人らしく過せるよう声掛け確認、支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好きな物、嫌いな物を把握し、対応している。又状態に応じ小さく刻んだり、お粥等、個別対応をしている。野菜の皮むき等手伝って頂いている。	希望を取り入れた献立を職員が作成しており、手作りの家庭料理が提供されている。利用者は買い物に同行したり、出来ることを手伝っている。それぞれのペースが尊重され、ゆったりとした食事光景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量、声掛け見守りを行い、バランスの良い家庭的な料理をその方その方に合わせた食事形態で提供し、安全に摂取して頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは入居者様の習慣に合わせて行い、清潔が保持出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意思表示が出来る方は、その人の意志を尊重し、出来ない方には定時声掛け誘導を行い、失禁の無いよう心掛けている。	一人ひとりの意向や残存機能を尊重した対応に努め、排泄の自立を心がけている。必要に応じてポータブルトイレも使用して、自立心に配慮した快適な排泄支援を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、運動の声掛けを行い、腹部を温め、マッサージ等を行い、排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員と入居者様1対1で対応し、湯の温度など好みに合わせてゆっくりと対話したり、足浴して頂いたり、リラックスできるよう行っている。	基本として週に2回の入浴となっている。男性入居者が多い為に、男性と女性の入浴日を分けているが、状況に応じて対応している。ゆず湯や菖蒲湯を実施し、季節を感じ楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	椅子で仮眠されたり、声掛けにて居室や畳、ソファで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書で把握。看護師と相談し、状態変化、様子観察を行い、担当医へ報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	しびし折り、刺し子等、楽しんでもらったり、洗濯物を干して頂いたり、畳んで頂いたり、調理の下ごしらえを手伝って頂いたり、天気の良い日は散歩に出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調により、買い物・散歩・ドライブ等に出掛け、地区の祭りにも参加している。ご自身でタクシーを使ったり、ご家族の方と外出されている方も居る。	年間行事として、初詣や花見、紅葉狩りなどに出かけている。地域の行事や地元の花畑に行くこともある。家族や知人と外出する方もいる。周囲の自然光景が素晴らしく、散歩に最適な環境である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物等、タクシーを利用して行く方がおられるが、他の方は金銭管理が困難な為、ホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかかってきたり、本人が希望され、かけたりする支援を行っている。手紙のやり取りは一部の人しか出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースのホールは明るく外からの採光があり、温湿度管理を心がけ、季節の花、ちぎり絵等で季節感を取り入れている。	採光良く周囲の自然をいつも感じることが出来る、明るく落ち着いた空間が提供されている。大きくゆったりとしたソファが配置され、利用者は自分のお気に入りの場で寛ぎ、ゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室は、ご本人様が落ち着ける空間作りに努めている。また廊下に椅子・畳を置いたり、ホールにソファ、畳を用意し、寛ぎながら会話の出来るスペース作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由で、使い慣れた物を用意して頂ける様、御家族様にお願ひし、ご本人様が心地良く過して頂けるよう心掛けています。	一人ひとりの思いを感じる、生活スタイルに合わせた居室となっている。今まで使用していた家具や電化製品、テーブル、椅子などが持ち込まれ、快適な暮らしぶりを感じることが出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険防止に努めながら、出来る事は継続して頂けるよう自立に向けて支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500076		
法人名	特定非営利活動法人エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム桃源の家大島		
所在地	笠岡市西大島4415-1		
自己評価作成日	平成27年5月14日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海・山・川・田畑に囲まれた自然豊かな環境の中に施設があり、入居者様お一人おひとりが安楽にその人らしい生活が送って頂けるように、又、笑顔が職員・入居者様・ご家族様より見える介護を心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyouvoCd=3390500076-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山家岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年5月27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「桃源の家大島理念」毎日、朝礼時に唱和し、意識付けを行いながら、実践につなげている。職員が順番に毎月の介護目標を考え、朝礼時に唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、春・秋の掃除、秋祭り(千歳楽)等参加して、地域の人達から声掛けをして頂いている。季節の花や果物を持って来て下さる人もいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会、地域包括支援センター等の出前講座に参加したり、運営推進会議等で認知症予防・認知症について話をしている。より認知症について理解して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当施設の現状、入居者様参加行事等の報告、参加者の方から情報・提案を頂いている。次回の行事参加などに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿支援課、地域包括の職員の人達と地域密着型会議、勉強会等で、報告・相談・情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で身体拘束について勉強会を行い、事例について話し合いを行い、ケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で虐待について勉強会を行い、適切でない言葉遣い、態度があれば注意するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、パンフレット等で勉強している。入居者様も活用している方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い、疑問点・質問等には理解して頂けるよう、ゆっくり時間をかけてお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの同意を頂く時、面会時等、来所時に近況をお伝えし、気付き、要望等がある際には、同様に努めている。遠方の御家族様には、電話・郵便にて意向を伺うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、個人面談等で職員の意見・提案を聞く機会を設け、反映するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の勤務態度、努力・実績の評価を6ヶ月毎に行い、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、法人内研修に参加出来る時はしている。外部研修を告知し、参加している職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型会議、多職種会議等で交流する機会があり、勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い、本人の状態把握を心がけ、入居時に安心して過して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時、契約時にご家族の困っていること、不安な事をしっかり伺うよう努めている。どのようにホームで過ごして欲しいか伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族から話を伺い、その人にあったサービスについての情報提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事、出来ない事を見極め、生活の中で一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態に変化がある時は、すぐに電話にて連絡・相談をしている。ご家族様が来所時、現状報告を行い、相談しながら本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が来られた際には職員も時には間に入って、会話を楽しみながら支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性等考慮し、席の配置等に配慮しながら職員が間に入り、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、相談に応じ経過をフォローし、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の生活習慣希望を考慮し、日々の会話の中から、本人の意向を伺い、安楽な時間を過して頂けるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込等、契約時に御家族、ケアマネ、他の利用された事がある事業所職員から話を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様との会話や、習慣、生活歴、性格、趣味等、御家族様より伺い、状態観察、バイタルチェック、食事・水分摂取量等、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング、サービス担当者会議等で意見交換、課題を話し合い、御家族の方には面会時・電話にて、意向を伺いながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット申し送りノート、朝礼時等で情報の共有に努め実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節毎のイベント、花見、ドライブ、散歩で外出の機会を持って頂き、買物等、本人の希望に添えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会・小学校の運動会・発表会等に出席。小学生の訪問があり、地域のイベント等にも参加し、楽しむ事ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度協力医の往診があり、状態に応じて御家族に相談後、他の病院受診も行っている。入所前からのかかりつけ医が希望の場合、引き続き継続している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状況報告を看護師に行い、必要時病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室の相談員の方と受診、入院時、相談・情報収集を行い、状態把握に努め、退院時に向けて関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を御家族様に説明・同意を得、状態に応じ、協力医師・看護師・ご家族様と話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応について話し合いを行い、普通救命講習の受講を勧めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練、年1回の南海トラフ巨大地震津波避難訓練の実施を行っている。運営推進会議の場で協力をお願いしている。地元の消防団員の人達に施設見学してもらい、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や生活歴を尊重し、プライドを傷つけないように言葉かけ対応に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意志・意向が聞けるような言葉掛けを行い、自己決定できるよう実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのその日の状態観察を行い、笑顔の見える生活支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や更衣など、できる所は出来るだけ御自身でして頂き、その人らしく過せるよう声掛け確認、支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好きな物、嫌いな物を把握し、対応している。又状態に応じ小さく刻んだり、お粥等、個別対応をしている。野菜の皮むき等手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量、声掛け見守りを行い、バランスの良い家庭的な料理をその方その方に合わせた食事形態で提供し、安全に摂取して頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは入居者様の習慣に合わせて行い、清潔が保持出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意思表示が出来る方は、その人の意志を尊重し、出来ない方には定時声掛け誘導を行い、失禁の無いよう心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、運動の声掛けを行い、腹部を温め、マッサージ等を行い、排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員と入居者様1対1で対応し、湯の温度など好みに合わせてゆっくりと対話したり、足浴して頂いたり、リラックスできるよう行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	椅子で仮眠されたり、声掛けにて居室や畳、ソファで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書で把握。看護師と相談し、状態変化、様子観察を行い、担当医へ報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	しびし折り、刺し子等、楽しんでもらったり、洗濯物を干して頂いたり、畳んで頂いたり、調理の下ごしらえを手伝って頂いたり、天気の良い日は散歩に出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調により、買い物・散歩・ドライブ等に出掛け、地区の祭りにも参加している。ご自身でタクシーを使ったり、ご家族の方と外出されている方も居る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物等、タクシーを利用して行く方がおられるが、他の方は金銭管理が困難な為、ホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかかってきたり、本人が希望され、かけたりする支援を行っている。手紙のやり取りは一部の人しか出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースのホールは明るく外からの採光があり、温湿度管理を心がけ、季節の花、ちぎり絵等で季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室は、ご本人様が落ち着ける空間作りに努めている。また廊下に椅子・畳を置いたり、ホールにソファ、畳を用意し、寛ぎながら会話の出来るスペース作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由で、使い慣れた物を用意して頂ける様、御家族様にお願ひし、ご本人様が心地良く過して頂けるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険防止に努めながら、出来る事は継続して頂けるよう自立に向けて支援している。		